

林木の評価に関する記述A～Dの正誤の組合せとして妥当なものはどれか。

- A. 原価法は、造林に必要とした原価（費用）を単純に積算した額をもって林木の評価額とする方法であり、植林後1年以内の植栽直後の林木の場合などに適用される。
- B. 費用価法は、造林に要する原価（費用）の単なる合計額ではなく、機会原価としての利子も算入した額すなわち元利合計額（複利合計額）をもって林木の評価額とするものであり、通常は幼齢林に適用される。
- C. 間接比較法は、評価対象林木と樹種が同じで、地位、地利、林齢、成育状況などもほぼ同等な林木の取引事例が同一地域であったとき、両者を比較して評価対象林木の評価額を試算する。
- D. 折衷方式による林木の評価には、幼齢林の造林費用価（林木費用価）と伐期における伐採価とを直線で結んで、伐期以前の林木の評価額を求めるための便宜的な方法であるグラーゼル法などがある。

	A	B	C	D
1.	正	誤	正	誤
2.	誤	正	誤	正
3.	正	正	誤	誤
4.	誤	誤	正	正
5.	正	誤	誤	正

正答：3

次の文章は樹木の辺材と心材に関する記述である。文章中のA～Dに入るものの組合せとして妥当なものはどれか。

□ A □の分裂によって生じた新生細胞はそれぞれの細胞に分化し、細胞壁が完成したのち大部分が内容物（原形質）を失って生命活動を終え、□ B □して新たな辺材となる。ところが、一部の細胞（柔細胞）はなおも内容物を失わずに生命を持続する。一定期間後、柔細胞も内容物を失うが、その段階で自身ならびに周辺のすでに死んだ細胞を心材に変える。これを心材化という。心材化は柔細胞が分泌する□ C □によると考えられており、細胞壁に種々の沈着物が生じる。その結果、樹種に固有の色がつくとともに、沈着物のある成分が微生物や虫に対する毒性をもっているために耐久性が付与される。スギやヒノキの心材化は□ D □と称される移行材で行われていて、その含水率はスギでは心材より低い。

	A	B	C	D
1. 形成層	木化（リグニフィケーション）	酵素	偽年輪	
2. 成長輪	硬化（ハードニング）	酵素	白線帯	
3. 形成層	硬化（ハードニング）	色素	偽年輪	
4. 成長輪	木化（リグニフィケーション）	色素	偽年輪	
5. 形成層	木化（リグニフィケーション）	酵素	白線帯	

正答：5

水準測量では、2点間の距離が長い、高低差が大きい、障害物があるなどの理由で、2点間を一度に見通せない場合は「もりかえ点（T.P.）」を設け、各 구간ごとに高低差を求める。

次の測量野帳において、測点Aの標高を10.000mとした場合の測点Bの標高として妥当なものはどれか。

測量野帳

測点	距離	後視(B.S)	前視(F.S)
A	0.00m	1.200m	
T.P.1	60.00m	1.300m	1.200m
T.P.2	70.00m	1.800m	1.400m
T.P.3	65.00m	1.200m	1.300m
T.P.4	60.00m	1.300m	1.100m
B	65.00m		1.000m

1. 9.200m
2. 9.600m
3. 10.400m
4. 10.800m
5. 11.800m

正答：4